

会議録

会 議 名	令和 2 年度 第 2 回 生涯学習政策課審議会
日 時	令和 2 年 8 月 3 日 (月) 午後 7 時 00 分～
場 所	八王子市生涯学習センター 10階第2会議室
出席者氏名	委員 石川智子、小林正博、炭谷晃男、丹間康仁、戸村恵美子、中嶋昭江 中西栄、新野照代、町田浩一、三浦眞一、山崎領太郎
	事務局 音村昭人部長、小峰修司部長、安達和之課長、新納泰隆課長 高木健治主査、田島裕子主査、野崎久主査、大関亮主査 柿木美穂主任、平野克尚主任、廣重めぐみ主任
欠席者氏名	清水澄、村上ひろみ
議 題	審議事項① 令和元年度生涯学習関連事業評価について 報告事項① 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会の開催について 報告事項② 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会の開催について
公開・非公開の別	「公開」
非公開理由	
傍聴人の数	「なし」
配付資料名	審議資料① 令和元年度生涯学習関連事業評価について 審議資料①-2 令和元年度(2019年度)生涯学習関連事業 自己評価一覧 審議資料①-3 令和元年度生涯学習関連事業評価について(追加) (当日配布) 記入の手引き(当日配布) 報告資料① 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会次第 参考資料① 教育委員定例会における関連事項について(当日配布) 参考資料② 事前にいただいた御意見・御質問の一覧(当日配布)
会議の内容	【会長】審議事項①令和元年度生涯学習関連事業評価につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。 【事務局】令和元年度生涯学習関連事業評価についてご説明いたします。こちらは平成27年3月に策定いたしました「八王子市生涯学習プラン」に基づき、毎年、各所管において実施している「生涯学習に関連する事業」について、事業実施所管による「自己評価」を行い、継続的に事業を見直すことで、プラン全体の着実な施策推進を図っているところでございます。 令和元年度に各所管で実施しました「生涯学習に関連する事業」は全部

で531件について、各所管において自己評価を行い、このたび事務局で集約をいたしました。令和元年度の所管評価の概要全体の事業数は531件、昨年度の501件でしたので30件増加をしております。

また、自己評価の内訳も昨年度比で事業数比率をお示ししております。まずは「所管評価」についてですが、全体ではB評価が344件と最も多く、続いてA評価が96件、C評価が50件となっております。「評価なし」の36件につきましては、天候やコロナによる影響のものとなっております。続きまして、右の「方向性」事業の今後の方向性ですが、広める方向で継続が158件31%、高める方向で継続が134件全体の26%となっております。続きまして、「事業の実施形態」でございます。市の単独によるものが全体の208件で約40%、続いて指定管理者によるもの、共催事業、委託事業、補助事業の順番になっております。続いて「対象者」につきましては、「どなたでも」が260件で全体の半分を占めてございます。また子どもを対象にした事業が62件で全体の1割を占めております。「評価指標の項目」についてですが、「応募者・参加者の人数」が最も多く、次いで「参加者の満足度」による指標と続いております。総合評価について、昨年度の事業評価との比較となっておりますので、ご確認をいただきたいと思います。所管評価で説明いたしますと、A評価が令和元年度が96件、30年度が94件ということになっております。以下は確認をお願いいたします。

続いて3つの基本施策について、各施策ごとに説明をしております。まず基本施策1でございます。「子どもの頃から始める学びの基礎づくり」こちらは事業数で108件になります。「施策の報告性」については、現行の全プランに掲載されている内容でございます。本日机上配布をいたしました審議資料1-③円グラフのものでございます。1枚めくっていただきますと、基本施策1「子どもの頃から始める学びの基礎づくり」これをグラフ化・数値化したものでございます。こちらもおわせてご覧ください。それぞれ「所管評価」「方向性」「事業の実施形態」「評価指標の項目」それぞれグラフで数値化したものでございます。

続きまして30年度の生涯学習審議会からいただいた評価を少しピックアップしてご案内をいたします。様々な分野の講座や自然体験・国際交流などの学びの機会を提供し、子どもたちが豊かな人生を育むための基礎づくりとしての事業が充実をしている。人間関係の形成や社会での経験など、今の子どもたちにとって何が大切かをしっかりと捉えた多様性のある講座展開が評価できる。親子参加型の体験的な活動は今の時代に欠かせないものであるが一方で子どもだけでも参加できる事業の実施は、家庭環境等によらずに様々な体験する機会を子どもたちに提供することができるのではないかと。というような昨年は評価をいただいております。続きまして、基本施策1の事業の108件の中で、主なものをいくつかピックアップいたしたものです。30番の「北海道白糠小学校交流事業」

では、本市八王子市とゆかりのある北海道白糠町を隔年でお互いを訪問して、小学生と交流し友情を育み親善を深める事業でございます。アンケート調査では参加者から「とてもよかった」「よかった」との回答を得ております。車人形体験や高尾山登山、千人同心のお墓参りなどを挙げています。

続いて、80番ブックスタート事業でございます。こちらは保健福祉センター等で行います、乳幼児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」、子育てに役立つ情報を提供し、赤ちゃんに保護者に抱かれ、そのぬくもりの中で絵本を読んでもらう心地よさや楽しさを体験してもらうとともに、読書を通じた親子のふれあいのひと時を過ごしていただくことで、保護者も安心して子育てができる環境づくりに寄与している事業でございます。最後に放課後子ども教室ですが、新規開設が1か所増えて66校、週5日の実施が6か所増加し、それに伴って実施日数が前年と比べて235日増加していて、8,230日、延べ参加者数が前年と比べて20,530人増えて786,780人となっております。児童の安全・安心な居場所を地域の実情に応じ提供することが出来ました。以上基本施策1の説明です。

【会長】 それでは今、基本施策の1「子どもの頃から始める学びの基礎づくり」をご説明いただきました。具体的なものはA4の横のに続いているわけですが、その中でも特徴的な事業のご説明を30番・80番・108番ということでございます。生涯学習審議会の役割というところがあります。その中に書いてあるものも含めまして、右側の下に令和元年度生涯学習審議会評価という項目がございます。この部分に入る文言、考えそういったものを皆さんから今日ご覧になった上でいただいて、表を次回書き込みしたものをを出していただく、そのうえで再評価と言いますかね、再度手直しをするところは手直しをしていただいて、こういう手順になりますので、まずご質問、ご意見ございましたらお受けをいたします。何かございますでしょうか。

【委員】 事業の実施形態というところで「子どものころから始める学びの基礎づくり」は市単独が過半数なんですね。理由と言いますか、他のNPOとか共催とかそういった実行委員会とか、しにくいものなのかな。ただ市単独が多いのは1だけでなく実は4の生涯学習を見るともっと多くて7割になるんですけどね、その辺の理由がもしこういう理由なんじゃないかということ把握していらっしゃれば教えていただければと思います。

【生涯学習政策課長】 この子どものころから始める学びの基礎づくりの事業を実際にやっているところが多くが図書館であったりとかもう一つは福祉センターがやっている。どちらも直営ではありますので、その施設がやっているところが事業数が多くなってくる分、直営というところが増えている比率が高いのかなというふうに考えております。

【会長】いわゆるご質問等々いただいたわけですが、生涯学習審議会評価のところにいれるべく言葉ですとか考え方ですとかね、そういったものがありましたら、あわせてお願いできればと。こういう部分がもう少し強く強調したほうがいいんでないか、こういう部分がかけているのではないか。というようなことがあったらご意見を賜りたいと思います。合わせてこれはよく出来てるよということも別にいただければありがたいです。

【委員】広める深めるって二択というんですけども、このコロナウイルスの影響で今年このいただいた資料をずっと見ていたんですけども、前年度やったものにはいいんですけども、今年度も引き続きやりますよね。そうした場合非常に選択というのが各事業あるのではないかと思うんです。続けていくと全部前向きな方向にしているところがほとんどなんですけども、果たしてこれのできるのかどうなのか。

【生涯学習政策課長】まず、531件のうちこの表でコロナのことを記載のある行を拾っていくと全部で156件ありました。結局、昨年度12ヵ月ある中で、コロナの関係は主に2月3月、若干1月もあったかもしれないですけども、後半だけでしたが、コロナの関係531件中156件。なんらかの記載があり、その中で、今後の方向性については、全体では531件のうち休止というのは80件ありました。その80件のうち9割72件がコロナの影響で休止だということになっています。広める高める継続でも、本当にできるかできないか、でもこの回答時点ではやる気があるところで、回答いただいているところもあるんですけども、状況によってはもう、これは休止だなというような判断そういったところは休止で、休止を選んだところの9割はコロナの影響でということになって回答があったということになります。逆に廃止・終了が531件中15件あるんですけども、これについてはコロナの記載があったのは1件のみで残り14件はコロナとは関係ないところで廃止・終了ということのようで、もう1回各行、事務局のほうでも見てみますけども、もともと廃止を決めていたのかなというような。コロナの関係では廃止とまでは言わないでとりあえず休止・または延期というようなそのような判断をしているところが多い、そのような状況であります。

【生涯学習政策課長】今年の今年度やった事業を来年度評価するとき、ちょっと工夫がいるのかなと。先ほど事業の紹介をしました白糠町への相互の小学5・6年生の交流も今年こちらから行く年であったんですけども、本当は明日から行く予定だったんですけども、中止になっていますのでそういうところはここにはまだ記載されていないところありますので、ちょっと今年の分についてはより工夫がいるのかなというふうに思っています。

【委員】その30の北海道白糠町小学生交流事業というんですけど、どういうふうな選別でそこに行く。中止にはなったけどもその対象はどん

なことで選別しているのですか。

【生涯学習政策課長】小学校 5・6 年生を対象に市の広報とかホームページで公募して募集をして大体学年と男女比の関係もありますが、一部抽選だったりというところで、参加者を決めています。

【会長】よろしいですか。白糠町と八王子市との関係というのはみなさんご存じでしょうか。

【生涯学習施策課長】千人同心のつながりで、苫小牧も千人同心のつながりですが、原さんがさらに苫小牧から東の方向へ行って白糠町の方まで行って、そこで開拓をしたと。そういうつながりなので、今年の交流が 23 年目ということで、結構白糠町とは特に姉妹都市ということではありませんが、子供たちの交流が続いているということです。

【委員】要望が一つと質問が一つなんですけども、要望がね 150 番のいちよう塾ですけども、予算希望が 6000 万超えていますよね。一行だけで 308 回で 7024 人と書いてあるんですけども、正確には一般のほうだとそれから公開講座と要するに無料と有料と分けた形で出して欲しいとそうしてほしいと言ったんですけども、去年そうしてもらったんですけどもまた 1 つにまとまっちゃってこれは分けていただいて。それから後、質問ですけども、評価指標項目が参加者の満足度なのか参加者の人数なのかと、これはどこが決めているのか。

【生涯学習政策課長】確かに人数と満足度、数の勝負と中身の勝負というアウトプットとアウトカムの話なんだと思うんですけども、その決めは各主管課が担当しているセクションでその事業をどういう目的でやるのか、でその目的に達したかどうかというのもどうやって図っていくのか、そのものさしをどうするかというのも各事業主管課が考えて自己評価していただいているという流れになっています。

【委員】すると満足度の場合は 80%とか 90%はなど、やっぱりそれぞれの担当課が決めているということでしょうか。

【生涯学習政策課長】ええ、その目標値を決めて、その満足度がどうやって図るかというのは参加者のアンケートなどで、そこで良かったとか満足したとかやや満足とかそういうふうな選択肢の中で、より満足したほうがどのぐらいの比率だったかというところでそれを物差しにして評価しているのが多いかと思います。

【委員】それに関して要望なんですけども、基本的に継続して同じものをやっている場合は人数で評価してもらった方がいい。満足度というのはあいまいな気がするんですよね。

【生涯学習政策課長】それが事業の目的が広く多くの方に広げることであれば数でいくのかなと。それがだんだん事業が成熟してくると数ではなくて、今度中身が勝負していくのかなという段階の事業もあるかと思うんですね。そういうのはやはり中身がいかに充実しているかどうかそれが、その事業目的がそういうどういう物差しをあてるかという

ことになるかと満足度ということが出てくるのかなと思うんですね。ですからその事業目的が広く周知をするのか例えば理解を深めるとか同じ講座をやっても目的があろうかと思えますんで、それでどっちかになかなか絞ることができないなというのが今の事務局の実感であります。

【委員】大体非常に大きな単位のイベントの集合体である市民自由講座だとかいちょう塾というのは非常に人数が気になる。発展してるのかどうか。講座数が書いてあって人数が増えていますが、去年に比べてどうなんだろうと全然見えてこない。そういう大きなイベントというのは基本的に人数で追っかけてもらいたいなというふうに。

【会長】まだ工夫しなくてはいけないことが沢山あるんだろうと思いますので、検討していただきたいというふうに思います。

【委員】先ほどのコロナの問題ですが、やはりこれは今後数年に渡って大きな問題だと思うんですね。つまりこの感染症が継続されるだろう。ただし、生涯学習活動も出来るだけ持続継続していく。そういう方向をまたどうやったら感染を予防しながら生涯学習活動を進めていくのかということが今問われているのかな。ということでこれ自体は昨年度の活動の評価なんですけども、最後の審議会のところで今後こういう課題があって今後それに各団体も取り組んでいただきたいみたいなことを一言入れてもいいのではないかなと思いました。

【会長】一番後ろのところに全体の評価というところにいれていただくかたちになろうかと思えます。それでは「基本施策の2 誰もがいつでもどこでも学べる しゅみづくり」よろしくお願いします。

【事務局】「基本施策2 誰もがいつでもどこでも学べる しゅみづくり」でございます。昨年30年度に生涯学習審議会からいただいた評価をご紹介します。学びを通じた多世代の交流は素晴らしい取り組みであると。多世代の学びを通じての交流は高齢者には生きがいを、子どもたちには多様な視点を提供することにつながっていることが伺える。共生社会の実現に向けた学びとして、障害がある人も人生を豊かに過ごすきっかけとなる取組とともに、受講者の生活の向上にも役立っていることが素晴らしい。このような評価をいただいております。続いて元年度の主な取り組みでございます。299件ある中でいくつかをピックアップしました。その中で150番「八王子学園都市大学（いちょう塾）」でございます。こちらは高度で専門的な学習機会を継続的に提供することにより、市民の生きがいづくりや地域の活性化を貢献することを目指しております。参加者の満足度95%を目標に、実績値97.2%でA評価となっております。

続いて、「としょかんたんけんたい」でございます。図書館の窓口や内部業務等の幅広い業務を図書館を探索するなど、図書館をより身近な存在に感じてもらい、利用促進に努めることを目標に、40目標値に対し49人の参加があり、こちらもA評価としております。

【委員】もっと図書館を市民の方に知ってもらいたい、子どもにもっと利用してもらいたいと思うんですけども、親が率先的に子どもを連れていかないといろいろ難しいんじゃないかな、なんて思うんですよ。学校ではいろいろ言うんですけど、まず最初に取り掛かるのはPTA等を通して親を動かして子どもをもうちょっと利用するように持って行ってほしいなと思っています。そしたら利用者ももっと増えるんじゃないかと。

【会長】低学年でですかね。

【委員】そうです、低学年で。育てていかないととてもじゃないけど高学年から中学校からなんてことは。急には無理なのでまず最初に親が子どもを連れて図書館に行く習慣をつけたりしなければならぬ。

【会長】親子教育ですね。

【委員】PTAあたりからどんどん発展してほしいななんて思っております。

【会長】そういう視点をもって今後進めていただきたいということだと参考とさせていただきます。他にご意見ございますでしょうか。意見ということで出ておまして、それから図書館全体のこともご指摘いただきました。文化芸術のこととしてスポーツレクリエーション・高齢者の生きがいについて、非常に多岐に渡った項目が入っておりますので、なかなかご意見をするのが難しいのかなというふうに思いますが、それぞれポイントを絞った形で結構でございますので、ご意見等いただけたらと思います。

【会長】先に進めさせていただきます。基本施策の3「学習成果を活かし市民がつながる生涯学習の推進」につきまして、ご説明をお願いします。

【事務局】基本施策3「学習成果を活かし市民がつながる生涯学習の推進」でございます。事業数は85件でございます。こちらも昨年度30年度ですね、生涯学習審議会からいただいた評価をご紹介します。展示会やコンクールのほか、市民が参加できるフェスティバルのような市民の生涯学習活動の成果を発表する機会を提供することで、市民一人ひとりの地域社会への参加意欲の向上に寄与していると考えられる。また、生涯学習社会を実現させるための人材育成講座や、各種ボランティア講座を多く実施していることは評価できる。というような評価をいただいております。

続いて元年度の主な取り組みでございます。85件ある中で主なものを採用しております。いくつかご紹介いたします。468番「南大沢総合センターまつり」でございます。生涯学習センター南大沢分館を利用している団体と協働して日頃の学習の成果を発表し昨年が577名を上回り、1,756名の来館者があったということで評価をしております。

【会長】令和元年度の主な取り組みについてご説明をいただいておりますが、全体としては横版の方に入っておりますのでそちらを併せてご覧いただきながら、ご意見ご質問ございましたらいただきたいと思っております。

【委員】八王子市小中学校合同作品展おおるり展なんですけども、そこで私から見ると非常にいい取り組みだと思いますけども、参加者からの改善を求める声が少なくなるようにと、じゃあすごく多いのかねとどんなことを言っているんでしょう。

【委員】配置の工夫を求める声が多数あったというふうに書いてありますね。

【委員】結構小学校中学校学校数も多いので、自分のお子さんのがどこなのか、というところはなかなか探すときに探しにくいかなというところはあるかもしれません。ただ、どうやっても学校数が多いと、美術の作品もあれば家庭科の作品もあったり書道の作品もあったり、後配布みたいなものもあったり、いろいろなものが多種多様あるので、なかなかそこら辺の改善というのは、なるべく見やすくこちらの方でも取り組んでいくと思うんですけど、なかなかそこは難しいのかなというふうに思っています。

【会長】では、先に進めさせていただきます。基本施策の 4「生涯学習環境の充実」につきまして。

【事務局】「生涯学習環境の充実」でございます。事業数としては 39 件でございます。30 年度に生涯学習審議会からいただいた評価をご案内いたします。生涯学習センターの空き学習室を活用し、学生に対して放課後の「学習の場」として提供するフリースペースは施設の有効な活用であるとともに、生徒の安全面から見ても素晴らしい取組であるということでございます。また、生涯学習情報の収集については、事業の印象が薄い、長年の課題であるが各実施主体がそれぞれ発信している情報を一元化できるような仕組みを今後期待したいというような評価をいただいております。令和元年度の主な取り組みでございます。519 番の 11 ページの中段ぐらいになります。「夏休みイベントカレンダー」でございます。夏休みの期間における催し情報を一元化し、令和元年度につきましては約 260 イベント・催しもの情報提供し、子どもたちの学びの支援ができた。というような評価をしております。次に「フリースペース」の利用でございます。こちらのフリースペースでございますが、平日の夜間・土日祝日の開催日数を拡大したことで、それぞれ回数にして前年度とくらべて 166 回増えて 808 回、人数にしまして 4,994 人増えまして 20,935 名と大幅に利用者を増やすことができ、学生の学習需要に応えることができたというような評価をしております。施策 4 は以上でございます。

【事務局】基本施策の 4「生涯学習環境の充実」につきまして今、ご説明をいただきました。何かみなさんからご質問あるいはご意見はございますでしょうか。

【委員】フリースペースについて、今後ずっとコロナが収束するまで市の方としては休止という形で利用できないという形でもっていくのでし

ようか。施設として全然使えない。

【事務局】そうですね、コロナの関係で一時利用を中止としておりましたけども、7月1日からまた再開しておりますので、感染拡大の防止の対策を行いながらですね、開催を行っている最中でございますので、生涯学習センターでは行っておりますので。

【生涯学習政策課長】生涯学習センターここのクリエイトホールと。

【事務局】分館もですね。

【生涯学習政策課長】南大沢分館と川口分館でも。生涯学習センターは7月1日から再開だと。

【図書館部長】中央図書館も会議室がありまして、そこもフリースペースと同じように学習室として貸し出しは今までしてはいたんですが、コロナの関係で休止をしていました。8月からですね、再開する予定だったのですが、ここにきて感染者が拡大している状況がありましたので、中央図書館についてはまだ休止をしている状況であります。

【事務局】ご質問いただいた中で八王子学園都市センターの学生交流サロンにつきましては、借りられる対象者が受講者と学生さんということになっておまして、今現在につきましては借りたいという申し出がないということですので、利用できないということではないということになっております。

【委員】今フリースペースのお話が出まして、531 ですよ。これは学生と書いてありますけど、今の話ですと高校生とかも入っている。

【事務局】中学生・高校生、後は大学生学生だと専門学校とか予備校生とかそういった方にも開放しています。

【委員】やはりそういう若いうちに市の施設にお世話になったということが長い目で10年度30年度生涯学習だとかそういうのに参加してみようというきっかけにもなるかなと思います。そういう意味ではこういった事業は場所を貸すだけではなく何か具体的に学びのプログラムを提供するわけではないんですけども、こういったものも非常に大事にしたいです。今回表で531に分かれていますけど、例えばこのフリースペースもSNS、Twitter・Facebook今そういうフリースペースの状況について委員の中でどうなっているかというのは十分情報を得ていなかったんですけども、こういうSNSでもしかしたら校生とか専門学校大学生なんかもうわかっていてそれを踏まえて利用に来られているという場合もあると思いますのでそういった事業同士の関連での非常にうまくいくといいかなと。さらにこのSNSに関しては前回の評価のところ非常に評価できると書いていただいたんですけども、Twitterが380回1日に複数回更新がある日もあるということで、そのところも評価出来ますし、そういう若い世代に向けての発信ということではさらに拡充に向けてということで、非常にいい方向で継続していくなというふうに思います。

【委員】一つだけなのですが、新型コロナで今後あるいは既に中止が決まっているものが今度どう評価するかというのが大きな課題になると思います。今回の評価でも、天候とか台風とかで中止になったものについて評価なしとしているものもあれば、C 評価としているものもありまして、そこは何か統一した方がいいのかなというふうに思いました。ABC の評価がなくても言葉の中でコロナで出来なかったけどもそれに代わる何かが出来たら、中止だったけど別の代替の何か次の年、また次の年につなぐようなことが出来たということはこの〇の部分ですかね書いていただくことが必要になるかなと。コロナで中止になった場合行自体が消えちゃうのかどうかですね。もし、残るのであればそういう工夫をしていく必要があるかなと思いました。

【生涯学習政策課長】確かにこのコロナの影響があつての事業の評価をどうするかと迷うところがあつてもそれもきちんと統一感をもって表示していきたいなとは思っています。だからそういう点では行をまるまる消すということは考えていない。評価のについてコロナの影響でC 評価が増えたというのは歴史的にそれが事実であれば一時落ちるというのもありかもしれないんだけど、それでも何らか工夫をしてそうじゃないのかとかコロナの影響が少なくてもどれだけ影響を受けたかというのはちゃんと分かるような評価で表すか評価以外のところで表すかちょっと整理をして分かるようになって見返しができるようにしておきたいなと思っております。今現在のところで事業の種類だとか分野でどんなダメージを受けているか探ってはいたんですけども、どれも同じような比率でダメージを受けているということで、そういう点ではまんべんなくダメージを受けているのかなと。ただ、一つだけダメージを受けていなかったのが、情報の発信。情報の発信はコロナとは関係なくコロナの影響なく出来ているというのがあつたというのがちょっと参考までに。

【委員】来年度の評価のことも大切なんですけども、今年度これからされるイベントであるいは座学とかでもいいんですけど、オンラインで対応してみるだとか臨機応変なやり方を考えてらっしゃるのかなと思ったのですが。いかがですか。

【生涯学習政策課長】確かに事業の目的があつてその目的を達成するために手法が今まではみんな集まっていただけだったかもしれないけど、また違った方向もあるだろうということは各事業を組み立てることは考えているとは思っています。例えばオンラインでの事業の開始ができる環境にあるかどうかということがなかなか市役所その整備が追いついてないところもあり、それが早く追いつくようなことになればまた新たな手法によってその事業目的が達成できるようになるんじゃないかなというところは。今の段階ではまだ目に見えた成果は出ていないんですけども、早く出るというところは事務局のほうも思っております。それがまた表せるというなと思っております。

【会長】今後の大きな課題でしょうね。

【委員】小学生にはタブレットを配ったんでしたっけ？後 Wi-Fi 環境は整いつつあるのかなと思いますけども。

【生涯学習政策課長】そういう点では実践事例をいただきながら放課後子ども子ども達を集めて ZOOM を使った講座をやっているという情報もいただいていますので、という事例も集めながらやっていきたいなと。例えばコーディネーター会での会議でも ZOOM を使うとかっていうところもいろいろ参考にしながらやっていきたいなと思っています。

【委員】それに続けてなんですけども、ZOOM とかオンラインというのは市役所としては使えるのでしょうか。

【生涯学習政策課長】今は使えない。

【委員】ですよね。

【会長】他にご意見ご質問ございますでしょうか。時間的な制約もございまして、後日、インタビューあるいは全体を通して ZOOM についてご意見いただきたいこともございまして、次回の会議は 9 月の後半ということで後程発表があらうかと思うので、その間に今回いただいたご意見を含めて文書作って頂くわけですが、その間に戻られてこれをご覧いただいておりますね、ご意見等々がございましたら事務局のほうへメールでも電話でも結構ですのでよろしくお願いいたします。会議につきましてはこれで終わらせていただきますが、(2) 報告事項についてですが①東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 1 回理事会の開催について、それから②の令和 2 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 3 ブロック研修会の開催につきまして、併せてご説明をお願いいたします。

【事務局】先月 7 月 14 日に理事の三浦会長と事務局で都市社連協の理事会に出席した際に配布された資料を抜粋したものです。1 枚めくっていただきまして、2 ページ目が令和 2 年度のブロック研修会実施計画（案）となっております。このブロック研修会につきましては後ほど説明させていただきます。続きまして 3 ページ、12 月 12 日に開催される交流大会・社会教育委員研修会の実施要項（案）となっております。こちらにつきましては主に各ブロックの幹事市が今後実施予定である研修会の報告会となっております。続きまして 5 ページ、今年度の東京都市町村社会教育委員連絡協議会の役員名簿です。6 ページは協議会の理事名簿となっております。次に役員の輪番表となっておりますのでご確認いただければと思います。八王子市は平成 28 年度に会長市であったため当分の間役員は回ってこないことになっております。続きまして 1 枚めくっていただきましてブロック幹事市の一覧です。八王子市は令和 5 年に幹事市となっております。

【会長】それでは(4)その他でございますが、事務局よりお願いをいたします。

【生涯学習政策課長】口頭で失礼させていただきます。一点目は来年の成人式についてご意見を賜れればと思っております。例年ですと来年 1 月の 11 日成人の日第二月曜日ですね。オリンパスホール八王子で2回に分けて2部制でやっております。第1回が10時から11時、それから第2回が12時30分から13時30分。の第二回で行っています。二回合わせて3600人の参加者がいると。定員が2000人でほぼほぼ満員満席になるというような状況であります。ご案内のとおり新型コロナウイルス感染症の関係で果たして出来るかどうかというのがあるんですけども、なるべく最大限の拡大防止対策をすることによって会場で開催をして思い出に残る式になればなというふうに考えておまして、そうすると特に自粛要請がない条件の中で会場の条件が許す範囲で行っていただければなと思っております。そこで会場のほう二分の一以外2000人のところを1000人までに絞って行くと。いろいろ距離を保ったり消毒をしたり入れ替えのときは座席の消毒を行ったりという条件を示されておまして、そういう条件をクリアする中で開催が出来ればなということなのですが、毎年3600人以上の方がお越しになると2回では収まらないので、単純にやれば定員が半分になるので倍の4回公演、4回に分けて開催するのかなと。その時にいろいろ選択肢はここで考えるのですが、例えば日にちを分散して行う。それが今成人の日が月曜日なので、前日の日曜日、日月2日に渡ってやる方法も選択肢というか、考えられるには考えられると。それから場所の分散、場所の分散という点ではオリンパスホール八王子だけではなくて、例えばいちょうホール場合によっては南大沢の文化会館それからエスフォルタアリーナを使うとかいろいろあるんですけども、さらにもっと分散するとなると各中学校の体育館を使ったらどうかとか、学園都市というところで大学のホールが使えるかどうかということも考えようによってはいろいろあるんですけども、いろいろな課題も出てきますので、分散すればするほどマンパワーというか体制も人が必要になってきますので、なかなかそれも大変だと。今、事務局私どもで考えているのは成人の日、来年は1月11日ですけども11日の日に1日で4回公演で1回当たりの時間1時間の式典、式典30分アトラクション30分ですけども、これを半分にとにかく圧縮して入れ替えの時間をとって朝10時からスタートして入れ替えもちょっと短くして10時から11時45分からそれから13時30分からそして15時15分からとかいう例えばですね、そういうふうに4回になって1日で何とかできないかなというふうなことを考えております。そうすると第1回のところのご案内と第2回へのご案内をしているんですけども、第1回のご案内をさらに二分割して第1回と第2回、今まで第2回をご案内していたところを第3回と第4回に分けて4回のご案内をしてというようなことを今、考えておまして、なんかいろいろご意見がございましたら今日または日を改めてでもいただければなと思いま

す。なかなか実行委員会、学生さんを含めて若い方の実行委員会でいろいろ意見をいただきながらまた当日、司会進行等お願いするんですけども、まだ実行委員会が開けない状況で募集はかけているんですけども、委員さんが集まらないというところもありますので、皆さんお知り合いの中でそういうちょっとやっつけていいという方がいたらまたご紹介いただければなと思っております。成人式の話は以上になります。

【委員】大前提として後期の授業は大学はやめるのかやらないのかそれが結論が出なければ1月中旬に学生が何人残っているのか分からないそこから出発の方がいいと思いますけども。

【生涯学習政策課長】確かに今、大学キャンパスに学生がほとんどいないというそんな状況の中で、サークル活動もむしろ授業自体もなかなか大変なところでこういう活動が学生さん難しいのかなというのが承知はしているんですけども。

【会長】大学の授業が順繰りやっつけてこの日だけ学生に出てこいというかがなもののか。それどうなんですかね。

【委員】ふるさとの成人式に出た方が小中高の友達に会えるわけだから、学生にとってはその方が望ましいと思うんですけども。

【生涯学習政策課長】八王子の対象者7700人新成人7700人いるんですけども、大体1学年中学校卒業時点で5000人くらいなんです、約5000人そうすると2700はどう、上乗せっていうのは学生の流入だと思っております。でも出席するのは3600というのは元々八王子にいたりいう方でその学生さんは地元に出ているのかなというところだとは思ってはいるんですけども、実行委員会は集まって会議ができなくてなかなか難しいのでメールでのやりとりなどでいろいろご意見の交換ができればいいなというふうに思っています。

【委員】今度成人になる若者たちに対して例年のように何とかそういう場をとというのは非常に思いとしては大切なんだろうなと思ながらも、自分自身も大学で本学帝京大学一部の少人数の科目というのは対面授業を取り入れる状況にあるんですけども、学生のニーズの中ではですね、やはり怖いですとかリスクを避けたいということで自宅からの同時配信のような形を求めるそういう声もあります。実際に私の授業も対面で板書をしながらカメラを3台置いてですね、同時に配信するというのをしましたら、その履修者も非常に多いということでやはりハイブリットとか同時配信とか映像を作っておくとかそういう対応も両方考えておかないと急に出来ることではないなと。新年度入ってから我々の反省点でもあるので、もちろんそういう対面というリアルタイムの会場で顔とかを会わせてとかいうのも懐かしくてほんとだったらそれが出たら良いんですけども、でも今の若い人たちはむしろそうじゃないあり方を自分たちで探ってオンラインを使ったりとか他にもいろいろな方法でつながっていくという方法を探っていかなければいけない世代なのではないか

	<p>など学生に対して思っているところですから、ぜひそういうのも学生の知恵も市としては使えないかもしれませんが、取り入れてもらいながら方法を探っていただけたらと思います。</p> <p>【会長】他にご意見ございますでしょうか。</p> <p>【委員】やっぱり二十歳を迎える人たちに対してなんですけども、そういったことで八王子市としてはお祝いをするんだというその姿勢がとても大切なのかなと思うんですね。職員の方々も大変なご努力やっただいて、私も以前は成人式に出ていたこともありました。最近は全然出なくなってしまって申し訳ないんですけども、そういった意味でみんなですべてやっぱりお祝いをしてあげたいと、それがやはり学園都市としてもそうあるべきではないかな。それと先ほどの話のようにやはりこれから対面からデジタルへオンラインへじゃなくてハイブリットですよ、両方上手く使い分けていくという時代、両方選択肢を増やしていくということが、コロナ予防にも選択肢を増やすことが大切になりますので、そういった観点でお進めいただけたらありがたいなと思います。</p> <p>【会長】他にご意見ございますでしょうか。</p> <p>【会長】それでは以上をもちまして生涯学習審議会は終了させていただきます。</p>
<p>会議録署名人</p>	<p>平成 年 月 日 署 名</p> <p>上会議録は事実と相違するところがないことを認め、下に署名する。</p> <p>八王子市生涯学習審議会会長</p> <p>八王子市生涯学習審議会委員</p>